

# 常林院

## お盆行事予定



### 墓回向

八月五日(火)・六日(水)・七日(木)

午前七時から午前中

お墓と本堂にて回向致します。

### 棚経

八月三日(日)〜十五日(金)

お参りの日時は葉書でご連絡いたします。

### お施餓鬼

八月十六日(土) 午後六時半より

常林院本堂にて

ご先祖様お送りの日に、組寺五人で本堂においてご先祖供養致します。

ご希望の方は当日までにお申し出ください。詳細、質問等ございましたら、お気軽にお寺までご連絡ください。

### お盆の水塔婆について

① 水塔婆を受け取る(ご先祖様をお迎えする)

八月に入ると水塔婆のご用意ができております。お墓参りの際にでもお寺にお寄り下さい。水塔婆をお渡しします。水塔婆は一旦家にお持ち帰り下さい。

② 水塔婆をお仏壇に供える

持ち帰った水塔婆はお仏壇にお供えし、ご先祖様をお迎えします。

③ 水塔婆をお墓に供える(ご先祖様をお送りする)

十六日に再びお墓参りをして、水塔婆をお墓にお供えください。

その際に、お施餓鬼をご希望される方は、先祖代々の水塔婆を寺に渡してお申し込みください。

※これは基本の流れです。家々のご都合によって違う場合もあるかと思えます。

平成二十年七月一五日発行

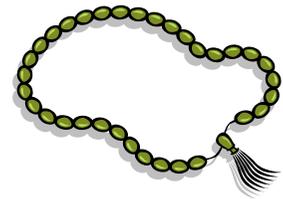
浄土宗西山禅林寺派

常林院

# 月影



第24号



ある人、法然上人に、

ねんぶつ

ねぶり

ぎょう

おこた

『念仏の時、睡におかされて行を怠り

はべ

さわ

と

はべ

侍る事、いかがしてこの障りを止め侍ら

ん』

もう

と申しければ、

さ

たま

『目の醒めたらんほど、念仏し給え』

こた

と答へられたりける。

吉田兼好

「徒然草」第三十九段

いかに念仏するか

浄土宗は「南無阿弥陀仏」のお念仏を称えれば、極楽浄土へ往生できるという教えです。それゆえに、上人のお念仏に関する問答がたくさん伝わっています。上の問答は、吉田兼好の「徒然草」に書かれています。『ある人が法然上人に『念仏をとなえている間に眠くなつたらどうしたらよいでしょうか。』とたずねられました。すると上人は『いったん寝て、目が覚めてからまた念仏しなさい。』と答えになりました。』

この話を伝え聞いた吉田兼好は「いと尊し」と、そのおおらかさに感心しています。「眠ってはいけません。」と言わない法然上人というお方は、こだわりがなく、非常におおらかな人物だったようです。

また、お念仏について上人はこんなふうにも言っておられます。

「結婚をしたほうが念仏を称えやすいのであれば、結婚すればいい。家に居てもよいし、流浪してもよい。他人の援助を受けてもよいし、自分の独力で生きてもよい。大勢の仲間と一緒にのほうが念仏が称えやすければ、大勢で称えればいい。一人のほうがよければ、一人でお念仏すればいい。」と。

念仏をするのに、こうでなくてはいけないといった決まりなんてないのです。

# お経の話

何が書いてあるの？

浄土宗西山勤行式 (赤本) 解説

開経偈

無上甚深微妙法 百千万劫難遭遇

我今見聞得受持 願解如来真实義

(訳)

このうえなくもなく深くすぐれた仏さまの教えに出会うことは、永遠の時を経てもありえないかもしれないほど難しいことですが、私はいま幸いにしてその教えを聞き、受けとらせていただきました。仏さまのさとの真実と意義を理解し、体得させていたただきたいと心から願います。



## み法にあえる 歓び

開経偈は、字の通り、「お経を開く偈文」という意味です。ほとんどの宗派で、日常のお勤めに用いられているようです。

「百千万劫にも遭遇難し」の「劫」とは、仏教の時間の単位です。縦・横・高さがそれぞれ一六〇kmの大岩があり、ここに百年に一度だけ天人が空から降りてきて、衣で大岩の表面をなでていきます。これを繰り返して大岩が擦り切れてなくなるまでの時間を一劫といえます。それを百千万回繰り返した時間が「百千万劫」で、「永遠」と言ってもいいくらいの長い時間です。それほど長い時間を過ごしても、仏さまの教えに出会うことは難しいことなのだとしています。

それは、もし「私」がお釈迦様よりも以前に生まれていたとしたら、仏教に出逢うことはなかった。もし、日本ではなくアメリカやヨーロッパといった外国に生まれていたとしたら、仏教に出逢うことはなかったかもしれない。今ここでこの時代に生きていることが、実は当たり前ではなく長い時間をかけて、数え切れない縁が集まったおかげかもしれない。そう思うと、生まれて来たこと、仏教に出逢えたことが不思議でありがたく思えてきます。

## あれこれ仏教用語

### 地藏盆（じぞうぼん）

地藏菩薩の信仰と、盆の行事とがいつの時代からか一緒になって行われるようになったもので、その起源はあきらかではありません。平安時代にはすでに京都で地藏盆が行われていたようです。

現在では、子どもの為の行事で「子どものお盆」とも言われます。ところで、地藏菩薩は六道（地獄・餓鬼・畜生・阿修羅・人間・天）に迷う衆生を救い導く菩薩です。

また、地藏菩薩は子どもの守り仏として、子どもの霊が集まる賽の河原（さいのかわら）で、鬼にいじめられている子どもたちを助ける菩薩です。街角でもよく見かけるように、一番身近な菩薩（仏）様です。

## 仏事と作法

問）お盆の由来を教えてください。  
答）お盆は「盂蘭盆経（うらぼんきょう）」というお経に説かれる話に由来するとされています。

それによると、お釈迦様のお弟子の中に、神通力に優れていたという目連尊者（もくれんそんじゃ）が、その神通力で亡き母を見てみると、餓鬼の世界に堕ちている姿が見えました。あわててお釈迦様に母を救う手立てをうかがいました。お釈迦様は、「夏の修行の最終日、七月十五日に僧侶たちに食べ物を供養すれば、その功德によってそなたの母は救われるであろう。」とおっしゃいました。

さのあまり他人を思いやる心を見失い、餓鬼道に堕ちていたということです。

現在のお盆は八月十三日に玄闍先やお墓で迎え火を焚いてご先祖をお迎えし、仏壇とは別に設けた「精霊棚（しょうりょうだな）」に様々な供物をお供えしてご供養します。その間、菩提寺の住職が一軒一軒読経に回る棚経（たなぎょう）が行われます。そして寺で行うお施餓鬼の法要でご先祖供養をし、十六日の夜に送り火を焚いてご先祖をお送りします。

また盆踊りは、空也上人や一遍上人などの踊り念仏が起源とされ、人々の娯楽であり、家々に帰ってきたご先祖の精霊の歓待と慰めの意味が強いとされています。

お盆中は、日々お浄土から見守って下さっているご先祖に対し、感謝の気持ちをお伝えたいものです。